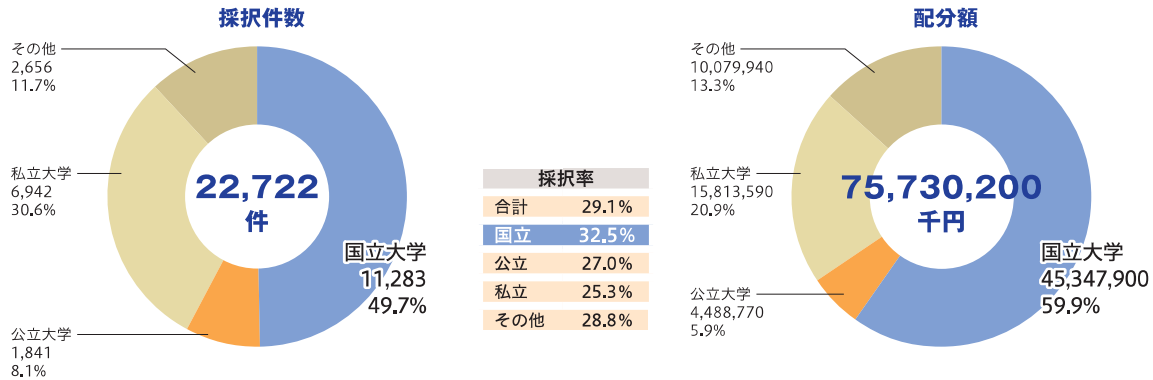


3. 研究

学術研究の基盤を支え、その発展をけん引

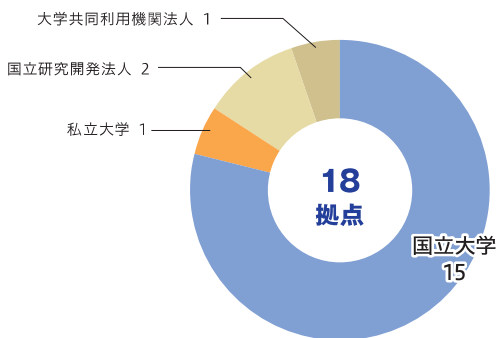
科研費の採択件数、採択率、配分額はともに高い水準にあり(3-1)、高いレベルの研究者を中核とした世界トップレベルの研究拠点の形成を担っている(3-2)。また多様な分野における全国的・国際的研究拠点として学術研究の発展に貢献し(3-3)、国際的な注目度の高い研究論文を多く産出している(3-4)。

3-1 科学研究費補助金（2024年度新規採択分）



(注) 割合については、値を四捨五入しているため、各区分の合計が100%にならない場合がある
(出典) 日本学術振興会「研究者が所属する研究機関種別 配分状況表（令和6年度 新規採択分）」より国立大学協会事務局作成

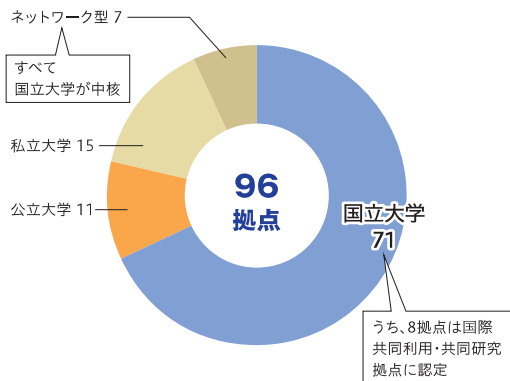
3-2 世界トップレベル研究拠点プログラム（WPI）



(注1) 2023年10月12日現在
(注2) 複数の機関で運営している拠点を含んでいるため、各区分の合計値が一致しない場合がある。
(出典) 文部科学省公表資料より国立大学協会事務局作成

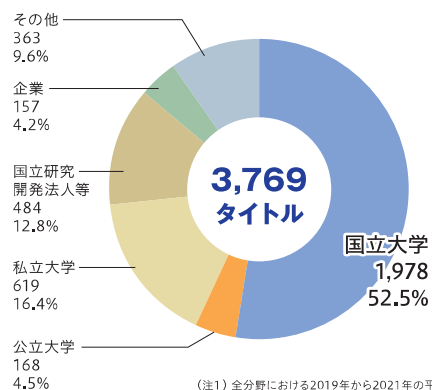
採択年度	ホスト機関名	拠点名称
2007	大阪大学	免疫学フロンティア研究センター（IFReC）
	京都大学	物質・細胞統合システム拠点（iCeMS）
	東京大学	カブリ数物連携宇宙研究機構（Kavli IPMU）
	東北大学	材料科学高等研究所（AIMR）
2010	九州大学	カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所（I ² -CNER）
2012	名古屋大学	トランスフォーメティブ生命分子研究所（ITbM）
	東京工業大学	地球生命研究所（ELSI）
2017	筑波大学	国際統合睡眠医科学研究機構（IIIS）
	金沢大学	ナノ生命科学研究所（NanoLSI）
2018	東京大学	ニューロインテリジェンス国際研究機構（IRCIN）
	京都大学	ヒト生物学高等研究拠点（ASHBi）
2022	北海道大学	化学反応創成研究拠点（ICReDD）
	広島大学	持続可能性に寄与するキラルノット超物質拠点（SKCM ² ）
2023	大阪大学	ヒューマン・メタバース疾患研究拠点（PRIME）
	東北大学	変動海洋エコシステム高等研究機構（AIMEC）

3-3 共同利用・共同研究拠点 国際共同利用・共同研究拠点



(注1) 2025年4月現在
(注2) ネットワーク型とは、複数の国公私立大学で構成されている拠点
(出典) 文部科学省公表資料より国立大学協会事務局作成

3-4 Top10% 補正論文数



(注1) 全分野における2019年から2021年の平均値（分数カウント法）
(注2) 割合については、値を四捨五入しているため、各区分の合計が100%にならない場合がある
(出典) 文部科学省科学技術・学術政策研究所「科学研究のベンチマーキング 2023」より国立大学協会事務局作成